「旬」の植物紹介（1月編）

ロウバイ *Chimonanthus praecox*　（ロウバイ科　ロウバイ属）

「寒風に咲く」そんな言葉がよく似合う花だと思う。身を切るような寒空の下で、この花に出会うと心地よい香りがまだ見ぬ春を思わせて、暖かな気分にさせてくれる。

名前の由来は、「蝋細工のようなウメに似た花」から来ているのは皆さんご存じのとおりである。

さてさて、私が「ロウバイ」とみているのは、実は「ソシンロウバイ *Chimonanthus praecox* form. *concolor*　（ロウバイ科　ロウバイ属）だと気が付いた。本物のロウバイは花の内側の花被片が小型で暗紫色であり、花の時期もソシンロウバイが終わった後に咲くそうな。

←ソシンロウバイの花
（2022.1.13　岡山市中区）

↑ロウバイの花
植物雑学辞典から転載

花の咲く時期にはもちろん葉は付けていないが、葉っぱは「鍋底のすす」を洗うに適したようにザラザラなので、花のない時期には同定の手掛かりになる。

もう一つの特徴は「種」。ゴキブリの卵を知る人は『おっ！』と思うくらいそっくりである。自然のいたずらにしてはあまりに似過ぎている。

元祖ロウバイにはまだお目にかかったことがない。加えて「クロロウバイ」もあり、夏に咲く「ナツロウバイ」もあるという。元祖も含め愛でる機会を心待ちしている。

←ロウバイの種
（植物雑学辞典から転載）

引用:岡山理科大学「植物雑学辞典」